



BLCJ BIMオブジェクト標準Ver.2.1のご紹介

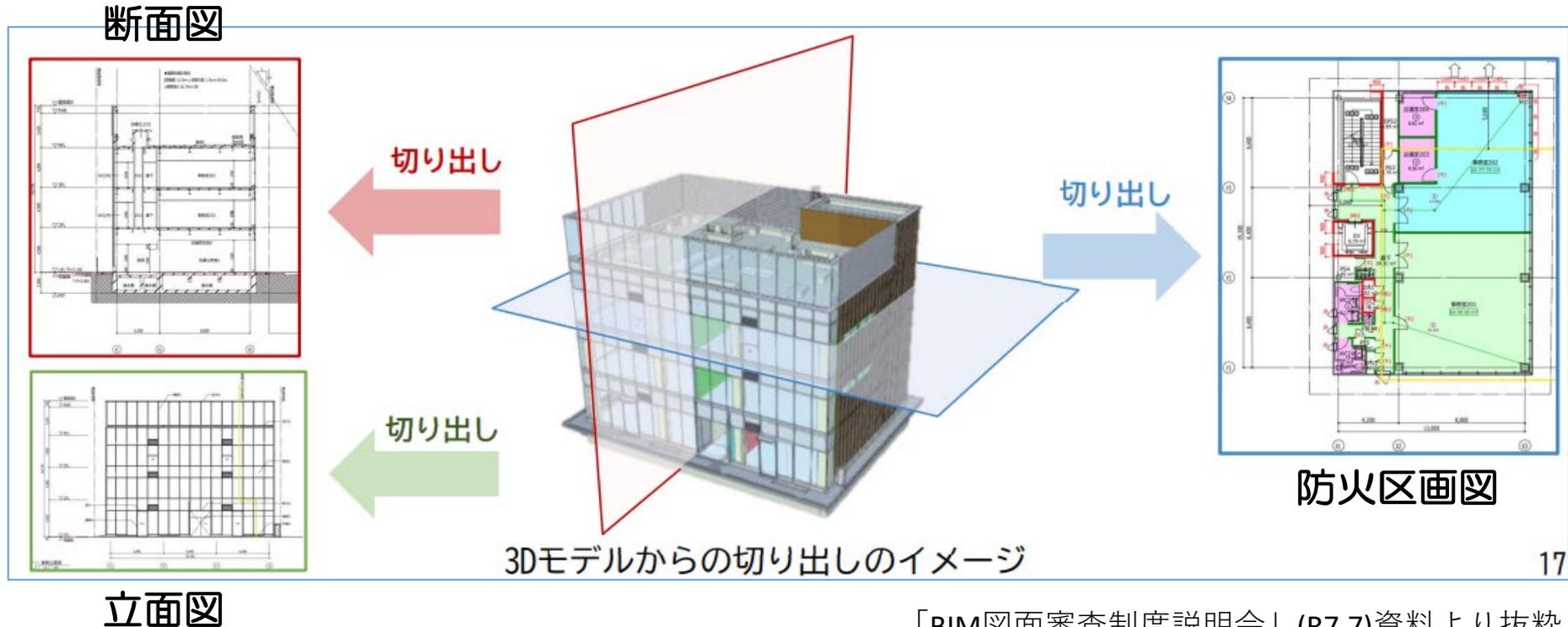
2026/02/24

BLCJ

BIMによる設計とは

BIM（Building Information modeling）ソフトを用いた設計では柱、梁、建具、設備機器といったオブジェクトから構成される3次元モデルをコンピューター上で作成し、この**3次元モデルを水平方向や垂直方向で切り出すことで、平面図、立面図、断面図**といった図面を作成します。

そして、BIMモデルを構成するオブジェクトに対して、名称や記号、性能種別などの情報を持たせることができます。



「BIM図面審査制度説明会」(R7.7)資料より抜粋

オブジェクト（部材等）は情報を持つことができる

オブジェクトには、様々な情報を持たせることができます。

部材の持つ情報（例）

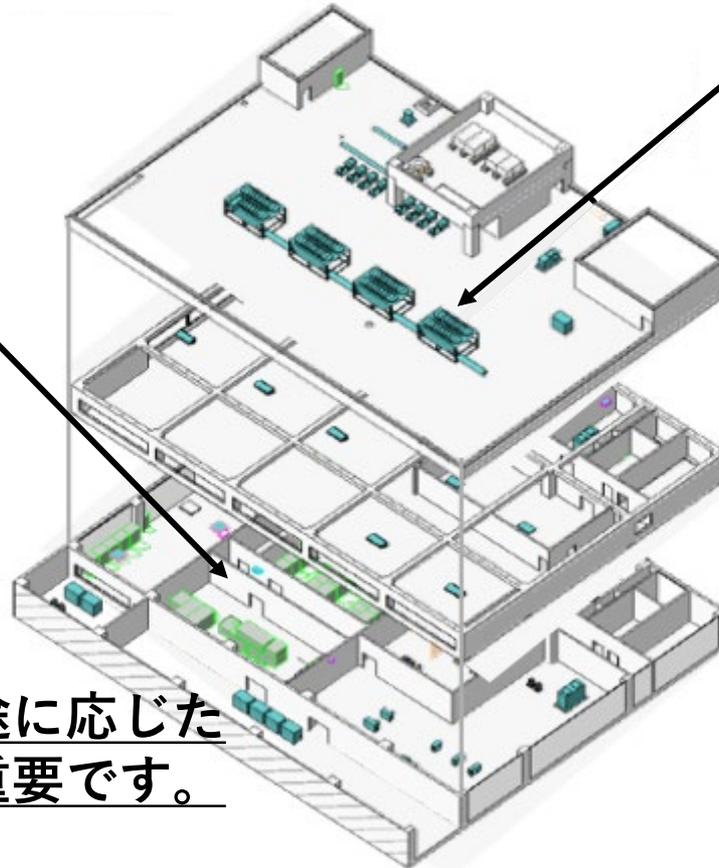
柱、梁、壁、天井、建具など

- ・ 位置、形状
- ・ 仕上げ
- ・ コスト
- ・ 仕様（防火性能など）

機器の持つ情報（例）

空調、照明、配電盤、衛生器具など

- ・ 位置、形状
- ・ 重さ
- ・ コスト
- ・ 仕様（省エネ性能など）



モデルの利用段階・用途に応じた「情報の取捨選択」が重要です。

※図解のため、壁などを取り払ったモデル

建築生産の各段階で必要な情報が異なる

オブジェクト単位で見た、建築に関する情報の「特性」「定まり方」

情報の種類	基本計画	基本設計	実施設計	施工段階	維持管理
「位置」	主なもの のみ設定	ほぼ確定	全て確定	実際に確定	実際の位置
「形状」				実際の製品等 により確定	実際の形状
「仕様・性能」				実際の製品等 の調達コスト	実際の仕様
「コスト」	概算用のコスト		積算用の コスト	実際の製品等 の調達コスト	維持管理コスト



「事務所ビル」の例



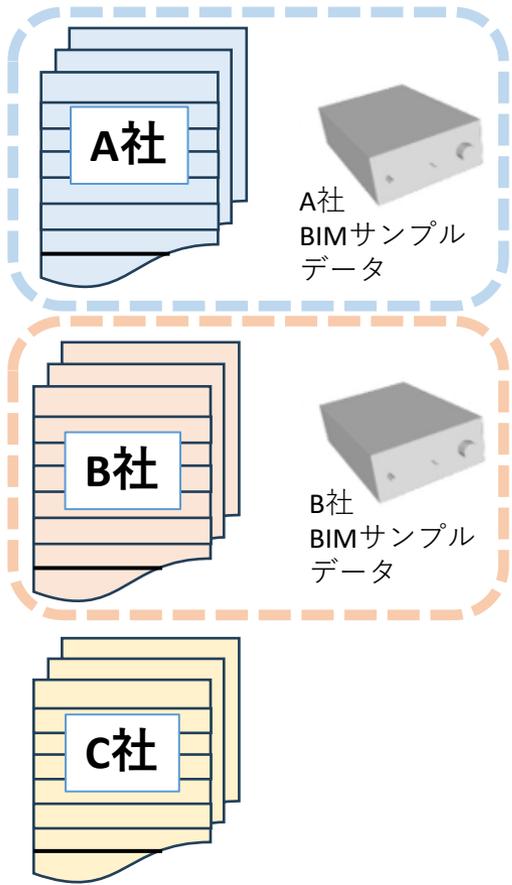
「標準化」のメリット（プロジェクトでの利用①）

BLCJ標準が普及すると
(各社の協力が得られると)

各社の製品情報に関して
「項目」と「記載」の横並びが図られる



準拠



メリット1：
設計者、施工者による
「比較検討」が容易になる。

メリット2：
情報の**「受け渡し」が容易**になる。

- ①分野間
(設計と施工、設計と積算など)
- ②ソフト間
- ③企業間 など

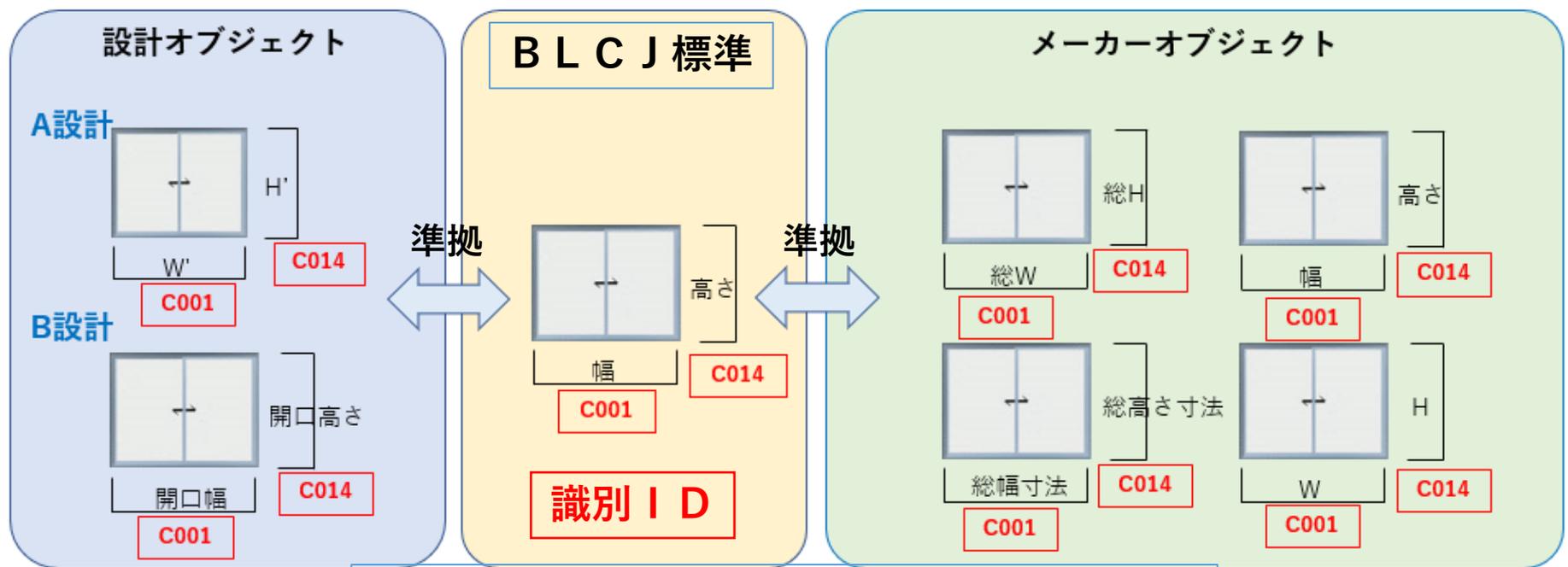
「標準化」のメリット（プロジェクトでの利用②）

各オブジェクトの
各項目が「ID」
を持つことで



設計者、メーカーによって
「表記の違い」があっても、
「同一の情報」であることが
分かる。
※下図の例では、「幅」と
「高さ」がそれぞれ「C001」
と「C014」の共通IDを持っている

前スライドと同様
「比較検討」や
「情報受け渡し」
が容易になる。



「引き違い窓」におけるID活用の例

「標準化」のメリット（デジタル社会への寄与）

データの蓄積が進めば

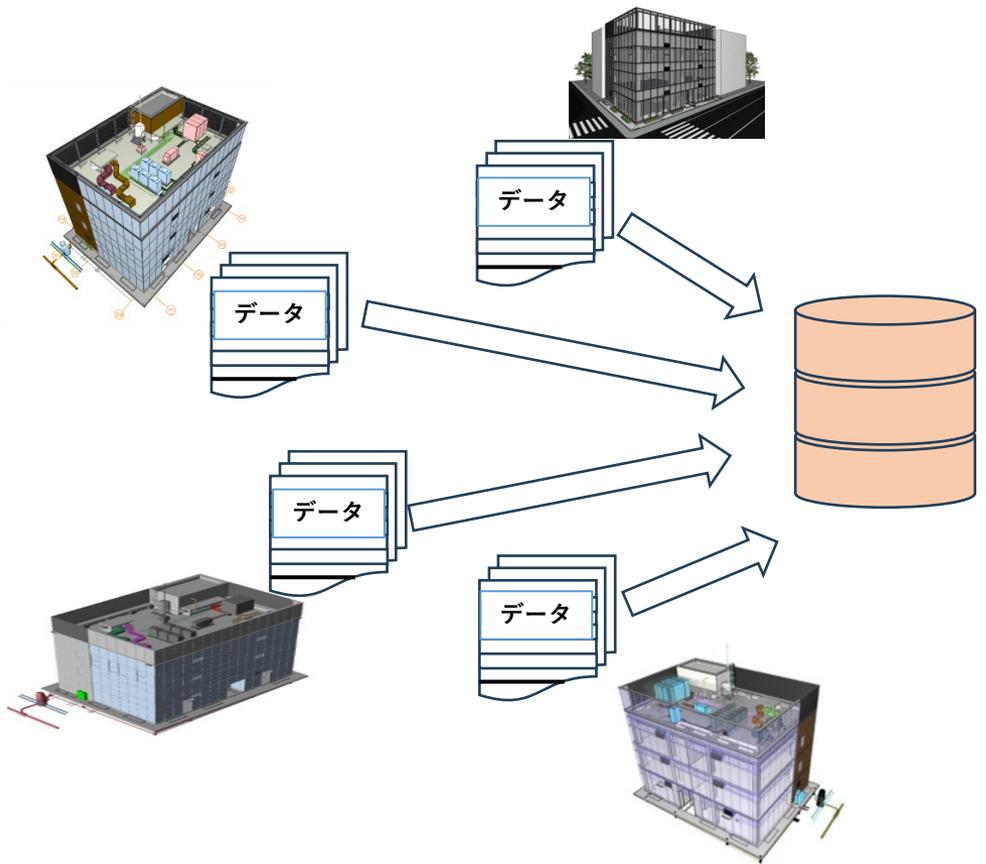
その分析が、都市問題などの課題解決に繋がる

建築物データの「標準化」

- ・ 項目、内容の「横並び」
- ・ 識別IDの付与

コンピューターによる

- ・ 「蓄積」「判読」
- ・ 「分析」が容易に



資料) 国土交通省作成

BLCJ標準の検討経緯

2015年4月 (一財)建築保全センターが(一財)建設業振興基金から
Stem、BE-Bridge 等※を承継

※Stem、BE-Bridgeは、設計、施工、資器材製造、CADソフトなどに関する企業等から構成するC-CADEC（設計製造情報化評議会）によって開発された標準仕様

Stem：設備機器ライブラリー標準 BE-Bridge：部材属性を伴ったCADデータ交換仕様

2015年10月 **BIMライブラリーコンソーシアム（BLC）設立**

※BLCは、BIMライブラリー構築を目的に設立された設計、施工、資器材製造、BIMソフトなどに関する企業、団体等から構成する任意団体

BLC-BIMオブジェクト標準Ver.1.0公開（2018年10月）

2019年8月 **BIMライブラリー技術研究組合（BLCJ）設立**

※BLCJは、BLCを前身として設立された「技術研究組合法」に基づく団体

BLCJ BIMオブジェクト標準Ver.2.0 公開（2023年12月）

BLCJ BIMオブジェクト標準Ver.2.1 公開（2026年2月）



上記の経緯から **B L C J 標準は、BIMオブジェクトのライブラリー構築を念頭に作成されている。**

B L C J 標準の概要

- **BLCJ組合員からの賦課金と、官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM） 予算による、7年間の調査研究の成果**
- 学識者、BIM設計の実務者からなる部会、ワーキンググループを設置し、機器メーカー、BIMソフトウェアベンダー等の協力の下で検討
- 既に利用されていたStem等やCI-NETコード※をベースとすることで、それまでの連続性に配慮（設備分野）
 - ※ C-CADEC（設計製造情報化評議会）が開発した元請け業者と下請け業者の間の取引に使用されることを目的に開発された分類コード
- 日本独自のデータ交換形式である ST-Bridgeをベースにすることで、国内での利用に配慮（構造分野）
- 海外標準（英国NBS標準等）や海外の分類体系（Uniclass、OmniClass）と連携することで、国際化に配慮

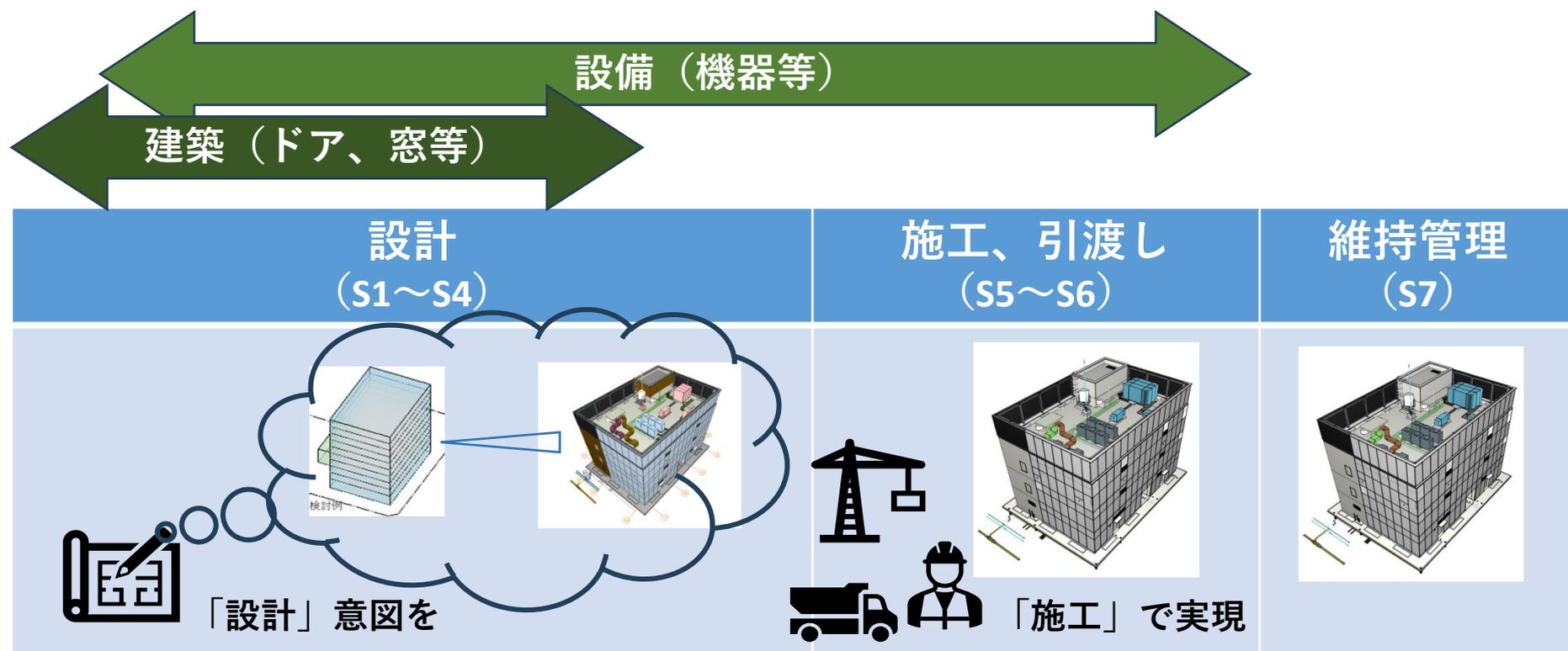
B L C J 標準で対象とする情報 (1)

【建築物の規模・用途】

延べ面積 10,000 m²程度以下の事務所・庁舎で通常使用される部材・機器の情報

【建設プロセスの段階】

建築は「基本計画から実施設計」の情報、設備は「基本設計から引渡し」の情報



B L C J 標準で対象とする情報 (2)

【対象とする部位・品目】

延べ面積 10,000 m²程度以下の事務所・庁舎で通常使用される部材・機器のうち
工事発注の際の予定価格（建物コスト）算出に必要なもの（+α）

※「+α」は、複数プロセス（段階）や複数者に関係するなど標準化の効果が高いもの

	対象とする部位・品目
意匠	窓、ドア、シャッター、トイレ(意匠関連) 空間
構造	S造の柱、梁、RC造の柱、梁、基礎、壁、床、場所打ち杭、既成杭、ベースプレート、免振装置、構造スリット、SRC柱
電気設備	照明器具、高低圧配電盤、発電装置、盤類、防災器具、太陽光発電装置
機械設備	ボイラー、冷凍機、冷却塔、ポンプ、送風機、空気調和機、全熱交換器、排煙機、給湯機、衛生器具、受水タンク、消火設備、バルブ、ダンパー、制気口、計器類
その他	エレベーター

B L C J 標準の構成（1）：建築意匠

【「窓」の例】

基本情報

グループ	属性項目名		タイプ	利用場面			
	日本語	英語		S1	S2	S3	S4
基本情報	企業コード	MakerCode	コード				
	企業名	ManufacturerName	文字				
	企業URL	ManufacturerURL	文字				
	分類コード	CategoryCode	コード				
	分類グループ	CategoryGroup	文字				
	製品グループ	ProductFamily	文字				

情報のタイプ
文字／コード／長さ など

建具共通の情報

建具_共通	建具種類	TypeName	文字	W/SS/SD				
建具_共通	建具番号	StyleType	文字	例) 101				
建具_共通	内外区分	InteriorOrExterior	文字	内部/外部				

建具種類、屋内外の別など

窓固有の情報

	下枠_設置	BottomLining	文字	ステール/RC				
	取付部の構造	MountingWallStructure	文字	C抱き/RC CP面一				
窓_枠	枠_見付け_右	ExteriorRightLiningThickness	長さ	外観から見				
窓_枠	枠_見付け_左	ExteriorLeftLiningThickness	長さ	外観から見				
窓_枠	枠_見付け_上	TopLiningThickness	長さ					
窓_枠	枠_見付け_下	BottomLiningThickness	長さ					
窓_枠	壁芯とサ 窓枠、窓障子、金物など	DimensionBetweenWallCenterLineAndSashCenterLine	長さ					
窓_枠	内枠チリ_左	ExteriorLeftJambEdgeProjectionFromWallSurface	長さ	外観から見た左右の位置とする。				
窓_枠	内枠チリ_右	ExteriorRightJambEdgeProjectionFromWallSurface	長さ	外観から見た左右の位置とする。				
窓_枠	外枠チリ_上	ExteriorHeadEdgeProjectionFromWallSurface	長さ					
	上枠の高さ	HeadHeight	長さ					

利用場面
基本計画（S1）～
実施設計（S4）の
どの段階で使うか

WEB管理情報

Web管理情報	データ作成ソフトVer	SupportSoftVersion	文字					
Web管理情報	BLCJ仕様バージョン	SpecificationVersion	文字					
Web管理情報	参照している仕様書等のバージョン	ReferenceSpecificationVersion	文字					

バージョン情報など

B L C J 標準の構成 (2) : 構造

【「既成杭」の例】

部材の種類	パラメータの分類			項目	名称	GUID	データ型	断面情報		
	大分類	中分類	小分類							
既成杭共通の情報				符号	name	9941b090-f981-423a-98ab-3629f445b1a	String			
				工法分類	construction_method_classification	43c9c3d1-fbae-4b3f-b276-9c689cb16052	String			
				工法名	construction_method	721c7f4-3c29-4077-b718-b7181f5ae63b	String			
	位置情報				レベル	level_top	16295ff-ae07-48d7-9906-0a5be084224d	Double		
					構造種別	kind_structure	135e093-fe11-4c22-9b8a-08d2376fd33	String		
					節点から荷重点のオフセット (X方向)	offset_X	4d0fd4bd-9d27-4398-8e7e-376695bb6cc2	Double		
				節点から荷重点のオフセット (Y方向)	offset_Y	9af8471-d438-4f4e-8170-f99ada13a3db	Double			
PHC杭固有の情報	位置情報			「既成杭」の位置	id_order	66b906b8-dd31-4980-a90b-03d859c03bc4	Integer		○	「既成杭」の 、第2杭、
		製品情報			メーカー	product_company	9157685-b5bc-4771-a1f0-65c6e48f065f	String		○
				製品型番	product_code	40a4ab1-6118-4f3d-85e7-c9a67a108843	String		○	製品型番式
	継手情報			種類	grade	71ab8a7-efad-4a1e-a6bb-a06365aacab7	String		○	強度条件
				種類	pile_joint_type	7c89bb3-daf3-422a-97cb-b7379ecff05c	String		○	工法の正
	寸法情報	長さ		杭の長さ	length_pile	6d0abc1a-4cd6-4126-b40d-16	Double		○	杭の長さ
	材料情報	コンクリート		強度	strength_concrete	aa848e4-e31e-499a-b775-ca	Double		○	コンクリ
		PC鋼樑		PC鋼樑強度	strength_PC	cd2c903-be81-43a3-a155-74	Double		○	PC鋼樑強
	寸法情報	断面		外径	D_pile	ef66600-2122-45c5-99be-50	Double		○	外径
				厚さ	t	91e42e0-cd8d-4790-ab38-10	Double		○	
				厚さ仕様	thickness_specification	bd1d64c-0415-484a-9e87-c6	Double		○	厚さの仕
	配筋情報	杭径	PC鋼樑		D_PC	069b267-2635-4a8f-9d34-aa	Double		○	PC鋼樑径

情報の
タイプ
文字列/数値
など

工法分類、工法名など

メーカー名、製品型番など

各項目を
識別する
ID

既成杭共通の情報

PHC杭固有の情報

ST杭固有の情報

メーカー名、製品型番など

BLCJ標準の構成（3）：設備

【「ボイラー」の例】

BLCJオブジェクト標準Ver.2.0 仕様属性名称			Share (Japan RUG)		S2	S3	S4	S5	S6
Items	仕様属性ID	フィールド形式	情報のタイプ	GUID	パラメータタイプ	利用ステージ			
機器管理情報									
1100	ENTERNA	企業名	文字/コード	[4a01112-166a-4956-9396-b0185844b7d]	共	文字	-	-	-
1101	MAKENURL	企業URL	文字/コード		組	文字	-	-	-
1102	ENTERNA	企業名	文字/コード		組	URL	-	-	-
1103	MAKENURL	企業URL	文字/コード		共	文字	-	-	-
「英国NBS標準」への対応項目									
BIMオブジェクト標準(BOS) 一般情報			BOS General						
9150	Reference	<仕様書>参照	文字	Author	共	文字	●	●	
			文字	SpecificationDescription	共	文字	-	-	
			文字	SpecificationReference	共	文字	-	-	
設計値、機器仕様情報									
【Design spec			各項目を識別するID						
1810	SIGH	記号	文字	41c0-84f0-5108aa275313	共	文字	○	○	○
1815	DEYNA	名称	文字	769a-8003-dfab1eaa0de	共	文字	○	○	○
1816	ASIGN	呼称	文字	4476-45c3-6f5cdf1443a0	共	文字	○	○	○
1817	SYSTEM	符号	文字	437c-83a1-02ba714873a6	共	文字	○	○	○
1818	UNITNAME	系統	文字	407d-a0cd-a793ab171ba6	共	文字	○	○	○
1830	FORMAT	形式	文字	632c2e62-45f3-439f-a107-d33a491ca118	共	文字	○	○	○
1840	SPEC	特殊仕様	文字	b4f86221-c16f-43a0-b4e6-1405a7c7ad40	共	文字	○	○	○
1840	SPEC	仕様	文字	b4f86221-c16f-43a0-b4e6-1405a7c7ad40	共	文字	○	●	●
1855	D HT AB	設計加熱能力	数字	1cb6ae09-62b3-4c10-822f-91a4bc10bfa6	共	暖房負荷	○	○	○
「米国の施設管理向け標準」への対応項目									
COBie パラメータ			COBie Parameters						
			文字	COBie.Type.AccessibilityPerformance	共	文字			
			文字	COBie.Type.AssetType	共	文字			
			文字	COBie.Type.Category	共	文字			
			文字	COBie.Type.CodePerformance	共	文字			○

標準Ver.2.0から標準Ver.2.1へ

■ 主な見直し・拡充のポイント

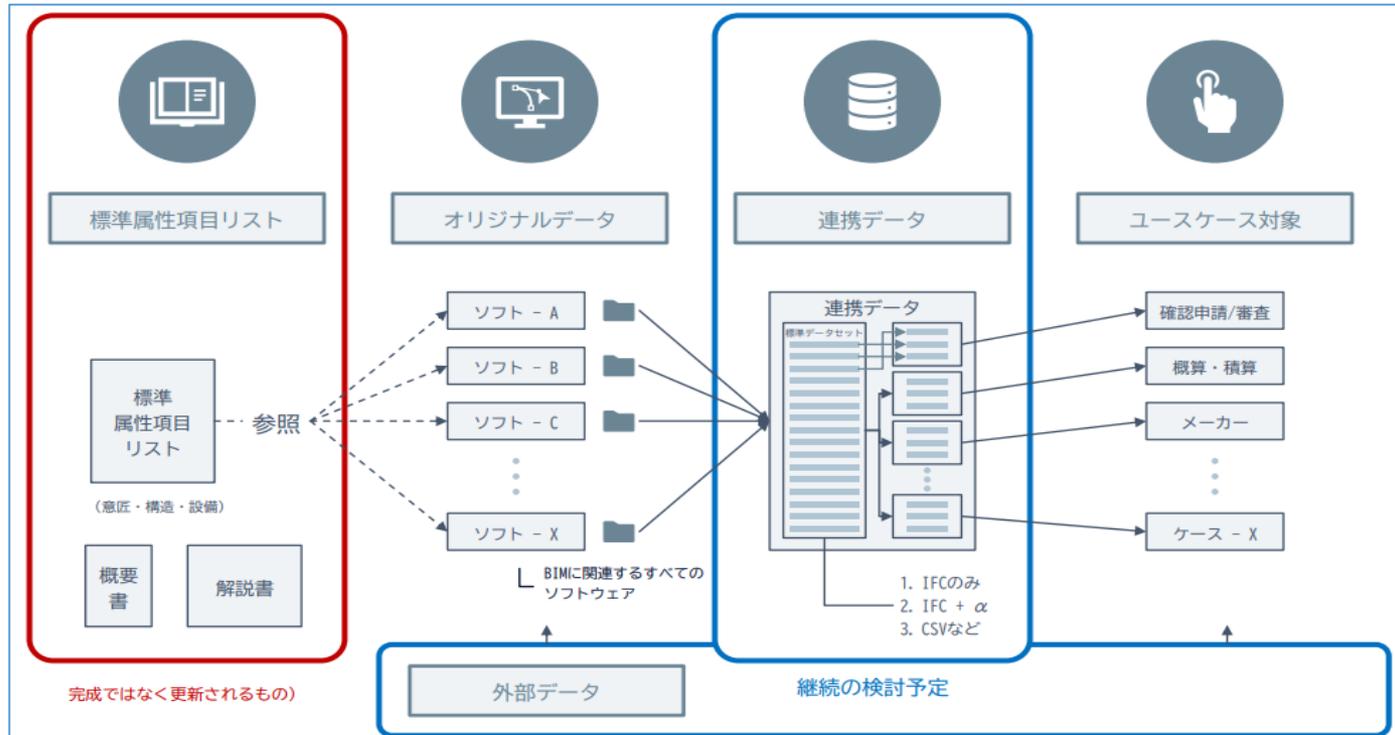
意匠	・「 トイレ（意匠関連） 」に、設計初期段階のメーカーとの調整に必要な項目を追加
	・建物ライフサイクルマネジメントを視野に「 空間オブジェクト 」の属性項目リストと解説書を新たに作成
構造	「 免震装置 」、「 構造スリット 」、「 SRC柱 」の属性項目リストを新たに作成
設備	・項目ごとに設定している 優先順位の見直し （必須「◎」、推奨「●」、任意「○」の三段階） （建築確認申請に必要な項目を「必須」に追加するなど）
	・ 配電盤等、照明器具など電気関連の属性情報を拡充（ISO等との整合）
	・オブジェクトデータの 設備BIMソフトへのインポートを念頭においた調整
	・付帯的な情報を各メーカーが独自に入力できるよう 汎用パラメーターを用意し、その入カールールを共通化（拡張性の確保）

建築BIM推進会議（標準化TF）の動き（1）

○国土交通省が設置した「建築BIM推進会議」の下に、**暫定的な検討組織**として「標準化TF(タスクフォース)」が置かれている

○同タスクフォースの**目的**は、「**データ入カールール等の整備(データの標準化)**と**データの受け渡しルール等の共通化**を進めることで、**設計・施工・維持管理等プレイヤー間でのBIMデータの横断的活用を(以下略)**」進めることとされている。

検討に当たっての**スコープ**
(視野、範囲)



標準化TF作成の資料より引用

○タスクフォースの昨年度の検討成果として「標準属性項目リスト」が公表されている。

- ・設計（及び概算）での利用を想定したもの
- ・BLCJ標準を参照しているため、共通する項目も多い

○右の模式図に示すように同リストとBLCJ標準の**違い**は

BIMライブラリの整備を念頭に「BIMソフトウェアへの**組込み易さ**」を考慮しているか否かである。



【建築・設備共通】

- ・標準化TFにおける「標準属性項目リスト」は、B L C J 標準を参照して作成されている。

【設備分野】

- ・メーカー等がBLCJ標準（Ver.2.0）に準拠して自社製品のサンプルデータを作成すれば、Revitや設備専用BIMソフトウェアにデータを読み込むことが可能となっている。

（今後Ver.2.1に対応する見込み）

※Revit、Rebro、CADWe'll/Linx、CADEWA Smart、FILDER CeeD

- ・既に機器メーカーの一部では、BLCJ標準に準拠したサンプルデータの作成・提供が行われている。

- BLCJ標準は、現在BLCJのホームページで公開している。
- 同ホームページは、BLCJ解散後3年間は維持する方針であり、当面(3年間)は同ホームページからアクセスが可能である。
- BIMオブジェクト標準を継続的に維持・管理する組織をどうするかについては、関係者による議論が進められている。
(現時点では定まっていない。)

○建築物の生産、維持管理、運用など、様々な場面で、今後ますます生産性向上が求められていくと考えられます。

○そのため、「情報の受け渡し」の円滑化が一層必要になっていきます。

○「BIMオブジェクト標準」の普及・活用は、その一助となるものです。

○標準の普及には、関係団体、企業の理解・連携が欠かせません。

本日の説明会が、標準の普及促進の契機になれば幸いです。
ご清聴ありがとうございました。